

青梅 古民家でサウナ

空き家活用 「観光資源に」

古民家の蔵を改修してサウナにし、宿泊設備も備えた施設が青梅市内に誕生した。手がけたのは、サウナ好きが高じて脱サラし、起業した2人の若者だ。空き家を活用した取り組みで、地域の観光資源に育てていく新ビジネスへの挑戦が始まった。(鈴木章功)

脱サラの若者起業

この2人は、昨年6月に横浜市から青梅市に移り住んだ山本幹太さん(30)と、立川市出身の鈴木翔さん(27)。大学時代に就職活動で知りあった2人は、共通の趣味がサウナだった。別々のIT企業に就職後、全国のサウナを一緒に訪れて、インスタグラムで各施設の特徴や魅力を発信してきた。



土で作ったサウナの中に座る山本さん(左)と鈴木さん(青梅市で)

「サラリーマン時代は朝から夜遅くまで仕事に追われ、判断能力が失われていった。リラクセスできたのはサウナだけだった」という山本さん。「生きている」を実感できるサウナ旅で2022年に出会ったのが、沖縄県恩納村のレジャー施設にあったサウナだった。

一般的なサウナの壁面は木製だが、ここは土を入れた袋を積み上げる方式。四方八方が土壁状態で熱が逃げにくくなり、体がじわりと温まった。「流れ出る汗の量がこれまでと桁違い」と語り、その夜はぐっすりと眠れたという。

「このサウナを自分たちでやってみたい」と、2人は昨年勤務していた会社を退職し、横浜市で事業を始めた。既存の建物を改修した方が安いのと、サウナが空き家の有効活用の好例になると考え、神奈川県内などでサウナ付き宿泊施設にするための物件を探して回ったが見つからず、たどりついたのが青梅市だった。

この空き家は、700平方メートル近い敷地に建つ築15



1階をサウナ、2階を休憩スペースに改修した蔵。手前は井戸水を利用した水風呂

0年の平屋の古民家。新宿から約1時間の距離にありながら、山並みが美しい自然環境にひかれたという。目玉のサウナに改装する蔵があり、水風呂に使える井戸水も湧いていた。

クラウドファンディング(CF)で改修費などの資金を募り始め、インスタグラムでは9万6000人のフォロワーがいることもあり、1600万円が集まった。工事の手伝いに数多くのフォロワーがボランティアとして駆けつけたという。

サウナ付きの古民家宿「JIKON SAUNA TOKYO」は、今年1月にオープン。鈴木さんは「青梅は自然が豊かで、おいしい食材もある。出会った人はみな温かい。青梅を体験するオフラインのメディアとして、情報発信していきたい」と語る。

山本さんが物件探しのと

きにかかったのは、空き家の多さだったという。「空き家にサウナという付加価値をつけて観光資源にする事業を今後も展開し、地方創生につなげたい」と意気込む。

JIKONに宿泊できるのは1日に1組だけで、人気の土・日曜宿泊プランは7月まで予約がほぼ埋まっており、平日は宿泊、日帰りとも空きがあるという。

災害時 法律相談しやすく

足立法曹会と協定 足立区が費用負担

足立区と区在住の弁護士らで作る足立法曹会は、大規模災害時の法律相談に関する協定を結んだ。

協定では、災害発生時、区の要請に基づいて同会が無料で被災者の相談に乗る。費用は区が負担する。

災害発生直後は弁護士が避

れた協定締結式で、近藤弥生区長は「復興までのプロセスで法律問題が出てくる。ワンストップで相談できる体制が一番良いので(他の団体とも)連携協定を結びたい」と話し、同会の小出康夫会長(71)は「地域事情をよく知る弁護士だからこそ被災者に寄り添った支援ができる」と話した。



足立法曹会と協定 足立区が費用負担 協定締結式 災害発生時における特別法律相談に関する協定締結式

協定を結んだ足立法曹会の小出会長(左)と近藤区長(足立区で)

よみうりカルチャー 北千住 読売・日本テレビ文化センター 3870-2061 北千住駅ビル・ルミネ9階

【おすすめ音楽講座】◆女声コーラスを楽しく 美しいハーモニーで、世界の名歌や昔なつかしい童謡などを歌いましょう。第1・3火曜13時15分◆ピアノで学ぶ最新演歌 ピアノに合わせて発声・音程・リズムを学び、最後にカラオケで仕上げます。演歌の歌い方